

香川の港湾整備計画 についての提言

—— 三橋時代の高松港と坂出港の在り方を中心として ——

平成 6 年 4 月

社団法人 香川経済同友会

香川の港湾整備計画についての提言

—— 三橋時代の高松港と坂出港の在り方を中心として ——

目 次

はじめに	1
[1] 香川県における港湾機能について.....	3
[2] 高松港の現状について	4
[3] 坂出港の現状について	5
[4] 提言	6
おわりに	9
<参考資料> アンケートの調査結果.....	11

港湾計画特別委員会名簿

はじめに

香川県は、おだやかな瀬戸内海に三方を囲まれており、古くから文化・経済面で海上交通を中心として栄えてきた。

特にここ半世紀の間、高松港は、四国の玄関として連絡船やフェリーによる物流・人流の拠点になり、高松市を四国の中枢都市に発展させる礎となった。また、坂出港は塩の集積地から番の洲工業地帯の整備により、内航はもとより国際貿易港としても発展してきた。丸亀港は造船・合板工場の立地により整備され、詫間港は木材を中心として今日に至っている。その他、県下全域にわたり、島嶼部を含め約60の港が、周辺地域の生活や産業と密接に関連して各々その機能を果たしている。

ところが、瀬戸大橋の開通とそれに続く三橋時代の到来、四国島内の高速道路網の整備等により、県下各港の港湾機能は大きな変革期に直面している。更に21世紀を展望する時、第二国土軸構想やモーダルシフトが想像以上のスピードで進展することが予想され、また、我が国の生産拠点の海外移行に伴う各種製品輸入の増加も必至であり、まさに「地方港の時代の到来」がうかがえる状況にある。

こうした中で、周辺の各県（高知、愛媛、徳島）では着々と港湾の整備構想が浮上し、一部（岡山・宇野）では既に整備が完了している。香川県の港湾整備もその対応が遅れると地域間競争に敗れ、ひいては香川県の地盤沈下を招くことが危惧される。最近の報道では、港湾整備に関する予算配分が抑制される傾向にあるが、香川県の場合、その地理的条件からして「港湾」、「海」の占める役割は大きく、生活者としての県民に大きな係わりを持っている。従って、予算配分も全国画一的にこれを行なうべきではなく、地域の特性を考慮した配分を期待したい。また、県民も声を大きくこのことを訴えなければならない。

このような観点から、我々は、香川県の将来の港湾計画が如何にあるべきであるかを検討するため、港湾関係者はもとより、広く県民各層を対象としたアンケート調査を実施した。その結果を参考に、社団法人香川経済同友会港湾計画特別委員会において、更に議論を重ね検討したものが本提言である。

平成6年4月

社団法人 香川経済同友会

代表幹事 丸山 修

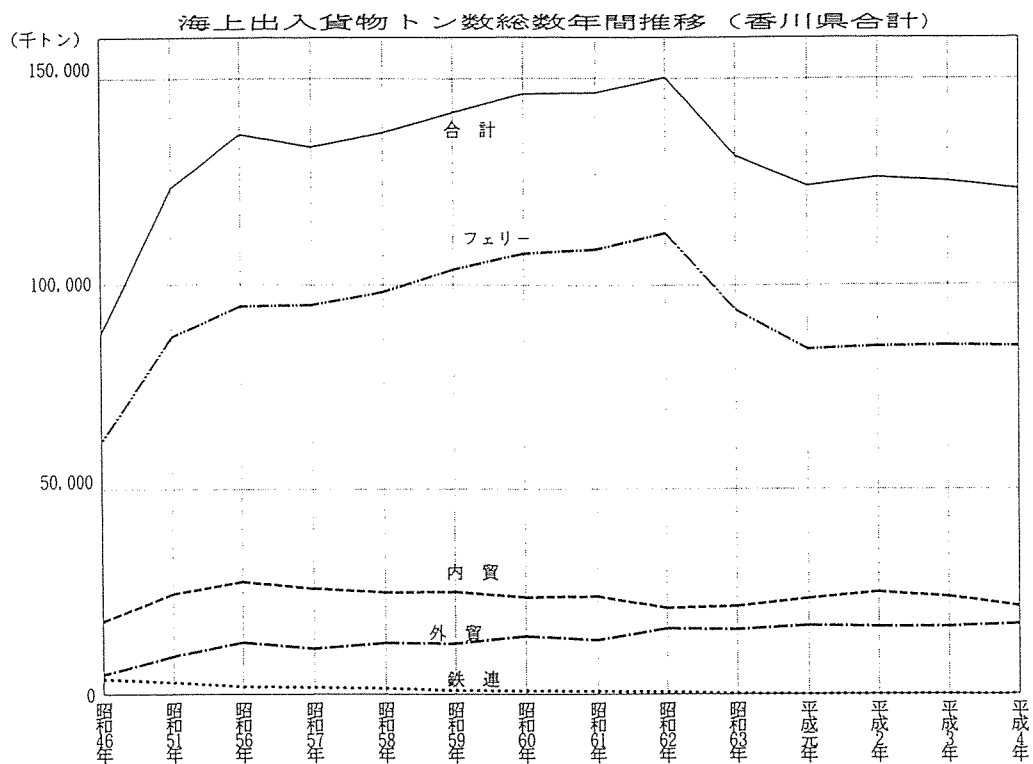
代表幹事 赤澤 庄三

港湾計画
特別委員長 田坂 博定

【1】香川県における港湾機能について

香川県には、重要港湾として2カ所(高松・坂出)、地方港湾として65カ所、その他2カ所の合計69港湾がある。

香川県全体の海上出入貨物トン数年間推移は、下図の通りであるが、高松港と坂出港で全体の7割強を占めている。



〔2〕高松港の現状について

表1

	瀬戸大橋開通前 (S62年)	瀬戸大橋開通後 (H4年)
入港船舶隻数 (千隻)	102	84
入港船舶総トン数 (千ト)	95,306	68,494
港湾貨物取扱 (千ト)	78,676	70,225
うちフェリー貨物	74,740	66,873
うち外国貿易貨物	235	217
船舶乗降人員 (千人)	7,408	2,663

高松港の利用状況を見ると、瀬戸大橋の開通前と開通後とは大きく異なってきた。

昭和63年4月10日、香川県民の念願であった瀬戸大橋の開通により、港周辺の人・物・地域構造等が大きく変化した。表1でもわかるように、従来はJRの連絡船の利用による人が大部分を占めていた船舶乗降客が、半減して全国2位から13位に下がっている。しかし、旧連絡船以外の旅客量は依然として多い。一方、フェリー貨物の利用は、減少幅が小さく全国第2位をキープしており、小豆島・直島など島嶼部の港との交流を含めて、貨客ともフェリー需要は旺盛である。

アンケートでは現在の高松港の利用目的を、物流手段よりは交通手段として認識しているものが多く、今後の課題としてもフェリーを中心とした整備、拡充を望む声が多い。

いま、香川県は港頭地区再開発（サンポート高松）計画の平成15年完成を目標として、21世紀に向けての国際化・情報化・都市化を進めつつあるが、高松港の今後の港湾計画を策定・実行するに当たっては、フェリーを中心とした海上交通網と陸上交通網を如何に機能的に結合させていくかが重要なポイントである。アンケート結果によれば、高松港の現状評価は、車両利用者

にとっての道路アクセスの不便性と中心部の交通混雑が指摘されている。

また、フェリー利用の一般顧客にとってのJR・バスターミナル・電車などの接続の不便性、フェリー施設の老朽化や施設の狭隘なこと、歩行者への雨天対策、並びに適切な道順案内表示の不足なども指摘されている。

更に、21世紀に向かって、高松港の将来のグランドデザインを考えると、単に港頭地区のみならず、その周辺地区を包含した地域についての「海から見たロマン溢れる景観の形成」こそ、新しい時代の高松港に対する要請であろう。

【3】坂出港の現状について

表 2

	瀬戸大橋開通前 (S62年)	瀬戸大橋開通後 (H4年)
入港船舶隻数 (千隻)	36	27
入港船舶総トン数 (千トン)	25,999	23,032
港湾貨物取扱 (千トン)	25,849	27,310
うち外国貿易貨物	13,949	14,814

坂出港は、物資の集散地として中国、近畿、九州、さらには北海道方面との取引に利用されていると同時に、番の洲企業の輸出入に伴う大型外航船の利用ウエイトも高く、外貨貨物の取扱いが港湾貨物全体の5割程度を占め、四国地区内では外貨貨物取扱量最大の国際貿易港としても機能している。更にまた、すぐれた立地性と水深、防風等に対する設備の良さから備讃瀬戸における避難港としても活用されてきた。

坂出港の場合には、瀬戸大橋開通前と開通後では、高松港ほど大きな影響は出でおらず、入港船舶隻数や入港船舶総トン数には伸び悩み傾向が見られるものの、番の洲工業地帯に立地する重化学工業関連を中心とする外国貿易貨物など港湾貨物取扱いは増勢基調にあり、貨物主体の港湾として今後も重

要な位置づけにある。

しかし、過去、四国一の貿易港として栄えた坂出港も、取扱い貨物量の伸び悩み、港湾財政の逼迫、港湾施設の老朽化など多くの問題を抱えている。

坂出港は歴史的にも港湾機能の集積もあり、また港湾施設の背後地の機能を高める余地も残されている。

アンケートでは、坂出港の利用目的について、高松港のように交通手段やレクリエーション手段として捉える認識より、物流手段として評価、認識しているものが多い。従って、坂出港における今後の港湾整備は、国際化の進む中で地域産業の発展に資するため、香川県における外国貿易の拠点港として一層の整備拡充を図ることが急務である。

また、外航・内航両面で坂出港・高松港が各々港湾機能を補完しあう関係が望ましいという指摘がある。

【4】提言

21世紀を展望した港湾計画は如何にあるべきか、以下の提言を行う。

提言 1

「地域間競争の激化が予想される中で、香川県の重要港湾である高松・坂出両港について、無理のない機能分担を図りつつ、ハード・ソフトの両面で一体的に捉えながら、各々の特性を生かした重点整備をすることが望ましい。」

①今後重点強化すべき両港の機能分担の方向

高松港：「人」「車」を中心とした第三次産業の機能

坂出港：「物」を中心とした第一次・二次産業の機能

②両港の管理・運営体制の一体化並びにポートセールスの強化

③「港湾」と「アクセス道路」を絡ませた都市計画の構築

④人々に感動を与える景観、緑化、ランドマーク等を重視した開発

提言2 〈高松港について〉

「港頭地区再開発（サンポート高松）事業に伴う観光・商業・情報機能を更に高めるために、既存の施設の立場に配慮しつつ、その周辺地区を含めて“瀬戸の都”に相応しい格調高い整備をすることが望ましい。」

- ①石油基地の移転若しくは美化等、周辺地域の環境整備
- ②目的地別のフェリー施設の集約・再編成とアクセス道路の整備
- ③利用者動線の鉄道・バス等とフェリー施設との接続利便性の充実
- ④フェリー利用者に対する誘導案内標示の充実
- ⑤「水城」（玉藻城）と「海」を一体的に捉えて、公園・緑地を十分に配置した、感性ある美しい港湾の整備

提言3 〈坂出港について〉

「坂出港を県下の内航・外航の拠点港として捉え、四国一のスケールを有する大型港湾に整備することが望ましい。」

- ①坂出港の県管理一元化など、県の支援体制の強化
- ②コンテナ基地を含む大型港湾開発と物流拠点の整備
- ③老朽化の激しい旧港地区の改修・再開発
- ④作業機能を高めるため、十分な岸壁背後地スペースの確保
- ⑤南北道路網の整備と坂出北インターの南行きフルインター化
- ⑥街路樹の十分な配置等、緑とうるおいに充ちた港湾の整備

提言4 〈その他の生活密着型の港湾について〉

「生活水準の向上、余暇時間の増大、高齢化社会の到来等による行動様式の多様化と、精神的要求水準の高度化に対応するために、高松・坂出以外の港においても、それぞれの港において利用目的別に区域を明確にした整備を推進することが望ましい。」

- ①漁業用、貨物用施設の充実
- ②フェリー用動線、駐車場の整備
- ③レジャーボート、休憩・散策用施設の新設
- ④緑と砂浜の雰囲気大切にした整備

おわりに

港湾計画特別委員会では港湾の現状について視察、勉強会及び討議を重ねてきたが、参考までにその活動を以下に記録する。

- (1)平成2年3月27日：第1回港湾計画特別委員会
勉強会 「高松港計画について」
第三港湾高松港工事事務所 所長 奥村研一氏
- (2)平成2年7月17日：第2回港湾計画特別委員会
出席委員によるフリートーキング
- (3)平成2年9月27日：第3回港湾計画特別委員会
高松海上保安庁巡視艇にて「海から見た高松港の視察」
航行安全課 課長 稲葉晃三氏
- (4)平成3年2月22日：第4回港湾計画特別委員会
勉強会「高松港の港湾計画」
香川県土木部港湾課 主幹 横田浩氏
- (5)平成3年5月17日：第5回港湾計画特別委員会
勉強会「坂出港の現況について」
坂出市建設経済部 港湾課長 米谷元一氏
- (6)平成3年8月6日：第6回港湾計画特別委員会
勉強会を通じての問題点整理、意見交換
- (7)平成3年9月20日：第7回港湾計画特別委員会
勉強会 「三架橋時代における港湾への期待」
四国運輸局 次長 神谷拓雄氏

- (8)平成4年3月18日：第8回港湾計画特別委員会
委員会活動について意見交換
- (9)平成4年7月30日：第9回港湾計画特別委員会
港湾アンケート調査（案）について審議
- (10)平成4年12月7日：第10回港湾計画特別委員会
港湾アンケート調査取りまとめの検討
- (11)平成5年5月11日：第11回港湾計画特別委員会
提言の骨子についての検討
- (12)平成5年9月24日：第12回港湾計画特別委員会
提言素案についての検討
- (13)平成6年2月18日：第13回港湾計画特別委員会
提言文書の最終調整

なお、アンケート調査を実施するにあたってご回答頂いた団体各位のご協力に感謝するとともに、本報告書が港湾整備の一助となれば幸せである。

<参考資料>

〔Ⅰ〕アンケート調査結果の概要

- ①調査期間 : 平成4年8月10日～8月31日
- ②調査対象団体 : 港湾に関係の深い団体 158社
- ③回答団体数 : 55社
- ④回収率 : 34.8 %

〔Ⅱ〕回答方法について

回答は文章による記入を中心として、港湾関係者の生の声が反映できるように配慮した。

1. 回答団体の業種

回答団体55社を業種別に分類すると次の通りである。

業種	団体数	構成比(%)
自治体	10	18.2
経済団体	12	21.8
諸団体	4	7.3
漁業関係	10	18.2
観光関係	5	9.1
流通関係	6	10.9
運輸関係	8	14.5
合計	55	100.0

2. 利用港湾名と利用目的

港湾名	利用目的				
	物流手段	漁業	交通手段	レクリエーション	その他
高松港	7	1	13	1	
高松東港			1		
生島港		1			
亀水港		1			
浦生漁港		1			
立石港		1			
石場港		1			
女木港	1	1	1		
香西港	1				
庵治港	1				
宮浦港			1		
直島港	1		1		
風戸港					1
土庄港	4		5	1	
土庄東港	1		2		
家浦港			1		
大部港	1		1		
草壁港	1		1		
福田港		1	2		
池田港	1		2		
坂手港	2		2	1	

港湾名	利用目的				
	物流手段	漁業	交通手段	レクリエーション	その他
内海港	1		1	1	
四海漁港		1			
引田港			1		1
三本松港		1	1	1	
猪塚港					1
津田港		1			
江泊漁港		1			
吉見漁港		1			
白鳥港		1			
白方漁港					1
坂出港	6				
沙弥島港				1	
木沢港		1			
丸亀港	2	1	2		1
本島港			1	1	
江の浦港			1	1	
多度津港			1		1
仁尾港				2	1
観音寺港			1	1	
豊浜港	1	2			
合計	31	18	42	11	7

社団法人香川経済同友会「港湾計画特別委員会」委員名簿

[代表幹事]	丸山 修	南海プライウッド(株) 代表取締役社長
	赤澤 庄三	帝國製菓(株) 代表取締役社長
[委員長]	田坂 博定	石丸産業(株) 代表取締役
[副委員長]	清水 康久	大成建設(株) 四国支店長
[常任幹事]	鎌田 正隆	鎌田醤油(株) 会長
[幹事]	有岡 定行	有岡会計事務所 公認会計士
	香西 薫	(株)香西鉄工所 専務取締役
	津島 惣一郎	(株)坂出郵船組 取締役副社長
	堀川 則之	四国フェリー(株) 取締役社長
	山内 良一	四国ドック(株) 代表取締役社長
[委員]	秋山 義博	千代田火災海上保険(株) 四国支店長
	猪熊 一之	坂出土建工業(株) 代表取締役会長
	大林 宏敏	(株)大和 代表取締役社長
	神原 正和	関西急行フェリー(株) 代表取締役社長
	斎藤 武夫	佐藤工業(株) 四国支店長
	実村 寿郎	東洋建設(株) 取締役四国支店長
	高橋 春夫	川添産業(株) 代表取締役
	玉城 正幸	(株)中幸船具店 代表取締役
	長尾 忠	高松重機(株) 代表取締役
	中村 征央	日本化学塩業(株) 代表取締役
	三野 開司	東亜建設工業(株) 四国支店長
	山田平一郎	高松臨港倉庫(株) 代表取締役
[事務局]	石丸 尚志	(株)香川経済同友会 専務常任幹事事務局長
	松田 秀司	(株)香川経済同友会 調査課長

香川の港湾整備計画についての提言

—三橋時代の高松港と坂出港の在り方を中心として—

平成 6 年 4 月 18 日発行

発 行 (社)香川経済同友会

専務常任幹事 石丸 尚 志
事務局長

〒760 高松市紺屋町 1-3
紺屋町清水ビル 6 階
TEL 0878-21-8754
FAX 0878-23-1160

(社)香川経済同友会提言 No. 16